

事例 すみれ老人大学

大阪福祉事業財団（大阪府）

〒536-0001 大阪府大阪市城東区古市1丁目20番82号

TEL 06-6931-0098

活動の概要

「高齢者のいきがづくり」と「福祉地域の担い手養成」のため、毎週1回講座を開催し、地域の高齢者の方に受講していただいている。学期を3学期制に区分し、2年で本科修了、もう2年受講していただいた方には、研究科修了という形で、4年生の大学の体裁をとっている。希望者には、卒業後の聴講を受け付け、学び続けたいというニーズに応じている。福祉、健康、いきがいの3つの講座を中心にカリキュラムを編成し、運営している。

法人の概要

当法人は、前身である恩賜財団同胞援護会大阪支部が1948年8月16日に民間法人として改組された日を設立日にしている。

その後、1950年に大阪福祉事業財団と改称し、1952年の社会福祉事業法の制定により、現在の社会福祉法人大阪福祉事業財団に改組した。当法人は「公設民営」方式によって誕生したが、半世紀を超える長い歴史を通じて、福祉施設及び各種事業の充実に努めてきた。

大阪府下に20を超える多業種施設と80を超える地域事業を通して、地域社会と住民の福祉要求に応えるため、運営の三原則（①利用者の生活と権利を守る②労働者の雇用とくらしを守る③経営の安定をめざす）を堅持し諸事業をすすめている。

- 経営施設数…23
- 法人全体の年間事業収入…5,471,000千円
- 主な経営施設
 - 救護施設…1
 - 知的障害児施設…2
 - 児童養護施設…1
 - 乳児院…1

- 特別養護老人ホーム…1
- 養護老人ホーム…1
- 養護(盲)老人ホーム…1
- 知的障害者更生施設…7
- 保育所…5
- 児童厚生施設…1
- 宿所提供施設…1
- 無料定額診療事業…1

実施施設の概要

- 施設名…城東特別養護老人ホーム
- 施設種別…特別養護老人ホーム（定員70名）

■施設の運営方針

- ① 利用者の生存権、幸福追求権の尊重
- ② 信頼される施設づくりの追及
- ③ 高齢者の人としての尊厳が保障されるための社会保障・社会福祉制度確立のための運動の展開
- ④ 平和で福祉ゆたかな地域社会をつくる

活動の内容

- 活動対象者…施設近隣在住の高齢者、その他希望する高齢者
- 活動の頻度…月4～5回
1回あたり1時間半程度

■年間の利用者…約1,000名

■活動開始年…1976年

■活動開始の背景（取り組みの経緯）

高齢者に学習を通して、福祉活動や社会参加への啓発を促し、それぞれの地域で福祉活動の担い手となっていただくことを目指すとともに、学習を通して、当時まだまだあった施設に対する偏見の除去や、地域の方が老人ホームで学習することで入居者との交流が進み、引きこもりがちな入居者の社会参加の窓口とすることも目的に事業を開始した。

■人材・賃金面等での工夫、苦慮

- ・脆弱な予算規模のため講師依頼が困難である。
- ・公務員や法人職員などを講師とし、経費を抑制している。
- ・講師の人材発掘が難しくなっている。
- ・いきがいつくりの助成金制度なども活用しているが、恒常的に補助金が保証されるとは限らず、収入が不安定になっている。
- ・利用者からは、テレビのコマーシャル等の出演者を講師として欲しいとの要望があるが、応えきれていない。

■利用者の声、地域の反応

- ・講義内容は受講者から好評をえている。
- ・人づてに「すみれ老人大学」の存在を知って、他府県から受講される方もいる。

主な経費や財源の内訳（年間当たり）

主な経費	概算額
講師料	322千円
会場費	45千円
卒業記念メダル等諸費用	45千円
合計	412千円

主な財源	概算額
・法人本部負担額	
・施設負担額	59千円
・利用者負担額（利用料）	352千円
・補助金収入 （補助金事業名：）	
・その他の収入	
合計	412千円

活動の成果、地域の影響、今後の課題

- ・成果としては、受講者が地域のボランティア団体に入ってボランティア活動をしたり、福祉まつり等の運営にあたってボランティアや参加団体の中心メンバーとして積極的に協力いただけるようになった。また、老人大学のクラブ活動を通じて新たな交流の輪も広がってきている。
- ・今後の課題としては、益々高齢化が進行していく中で、高齢者が学びたいという希望にどう応えていくか、特に、充実した講座内容等を提供し続けていくためにも財政的基盤を確立していくことは急務となっている。